



平成 18 年 2 月

VOICE（仙台版）調査レポート

株式会社 東日本リサーチセンター
代表取締役 佐藤 彰男

当社では、日頃より地域の生活者の意識・実態について各種調査を実施し、情報発信を行っております。

近年、地震や火山の噴火、台風、集中豪雨、豪雪等、天災のニュースがよく聞かれます。そもそも日本は地震地帯にほぼ重なるようにして火山地帯が日本列島を走り、世界でも最も地震・火山活動が活発な地域となっています。また、近年は台風も例年より多く日本に上陸し、日本列島に甚大な被害を及ぼしました。さらに、東北地方はこの冬の降雪量も多く、各地で豪雪被害に見舞われています。

このような災害に対する危機管理は、“備えあれば憂いなし”の言葉のとおり、日常の意識と備えが大切であり、また、災害発生時の冷静な判断による自助能力と、相互扶助の意識が重要であるといわれています。

そこで、当社では今回、当社契約の仙台市民 1,000 人の消費者モニターを対象に、「防災対策に関する意識調査」を実施しました。

このたび、その調査結果がまとまりましたので、お知らせいたします。

調査実施概要

1. 調査対象および回収状況

調査対象者（仙台地域に居住する当社契約の消費者パネルモニター1,000人）

回収状況（対象数 1,000 サンプル、回収数 992 サンプル、回収率 99.2%）

		青葉区	宮城野区	若林区	太白区	泉区	合計
男性	20代	20	20	18	20	20	98
	30代	20	20	20	20	20	100
	40代	20	20	20	20	20	100
	50代	19	20	20	20	20	99
	60代	20	20	20	19	20	99
女性	20代	19	20	20	20	20	99
	30代	20	20	20	20	20	100
	40代	20	20	19	20	20	99
	50代	20	20	20	20	20	100
	60代	19	20	20	19	20	98
合計		197	200	197	198	200	992

2. 調査方法

留置調査法（訪問留置、訪問回収）

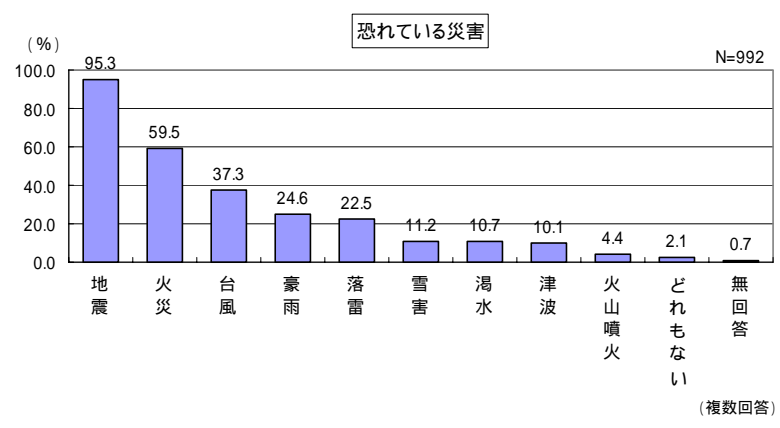
3. 調査実施期間

平成 17 年 10 月

1. 恐れている災害

恐れている災害は、「地震」が95.3%で9割以上と最も多く、次に「火災」が59.5%とほぼ6割で続いており、以下、「台風」が37.3%、「豪雨」が24.6%などとなっています。

恐れている災害を性別で見ると、「豪雨」は女性(28.0%)が男性(21.2%)を6.8ポイント、「落雷」も女性(25.4%)が男性(19.6%)を5.8ポイント、それぞれ上回っています。また、年代別で見ると、「火災」が20代(52.3%)で唯一5割台と、他の年代で6割台になっているのに対し少なくなっています。「台風」は60代(45.7%)で他の年代より5ポイント以上多く、「豪雨」は60代で唯一3割台で、他の年代に比べ多くなっています。

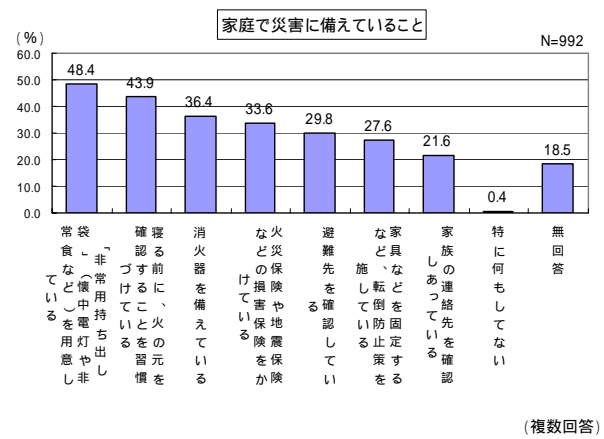
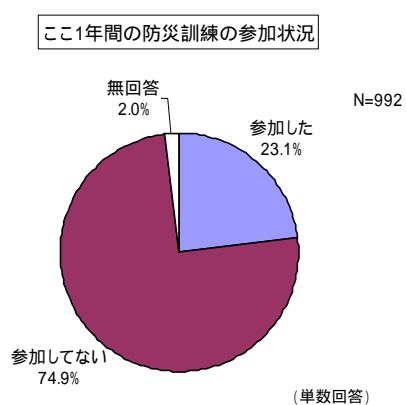


2. ここ1年間の防災訓練の参加状況と、災害に備えていること

ここ1年間の防災訓練の参加状況は、「参加した」が23.1%、「参加していない」が74.9%となっており、4人に3人が「参加していない」結果となっています。
 災害に対して備えていることは、「非常用持ち出し袋の用意」が48.4%で最も多く、次に「火の元の確認」が43.9%で続き、これら上位2位が4割代で多くなっています。

ここ1年間の防災訓練の参加状況を性別で見ると、「参加した」は男性(25.4%)が女性(20.8%)を僅かに上回っています。また、年代別で見ると、「参加した」は20代(16.8%)で唯一1割台にとどまっております、他の年代に比べ少なくなっています。

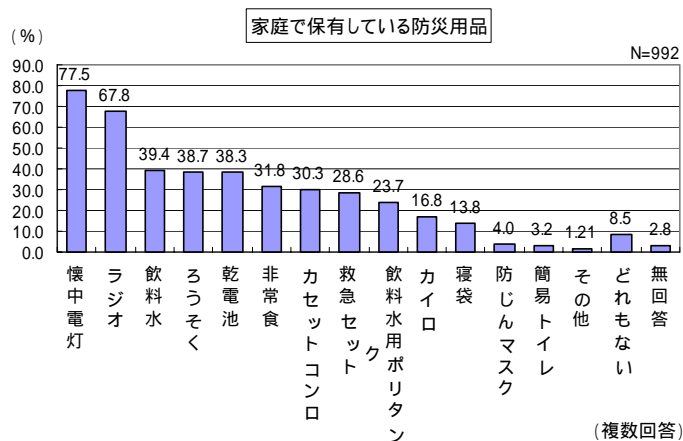
災害に対して備えていることを性別で見ると、「非常用持ち出し袋を用意している」は女性(53.8%)が男性(42.9%)を10.9ポイント上回っています。また、年代別で見ると、ほぼ全ての項目において年代が高くなるに連れ多くなる傾向を示しています。



3. 家庭で保有している防災用品

家庭で保有している防災用品は、「懐中電灯」が77.5%と8割近くに達し最も多く、次に「ラジオ」が67.8%と7割近くで続いています。以下、「飲料水」が39.4%、「ろうそく」が38.7%、「乾電池」が38.3%などとなっています。

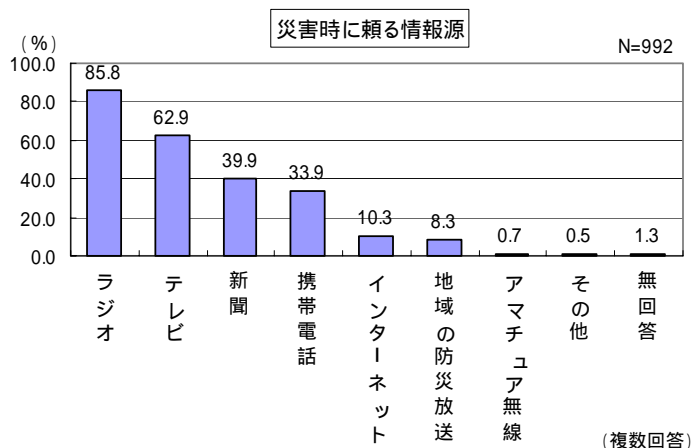
家庭で保有している防災用品を性別で見ると、「ろうそく」は女性(44.0%)が男性(33.5%)を10.5ポイント上回っております。年代別で見ると、「ラジオ」「ろうそく」は年代が高くなるに連れ多くなる傾向を示し、一方、「どれもない」は年代が低くなるに連れ多くなっています。



4. 災害時に頼る情報源

災害時に頼る情報源は、「ラジオ」が85.8%と8割を超え最も多く、次に「テレビ」が62.9%と6割代で続き、以下、「新聞(39.9%)」、「携帯電話(33.9%)」が続いています。

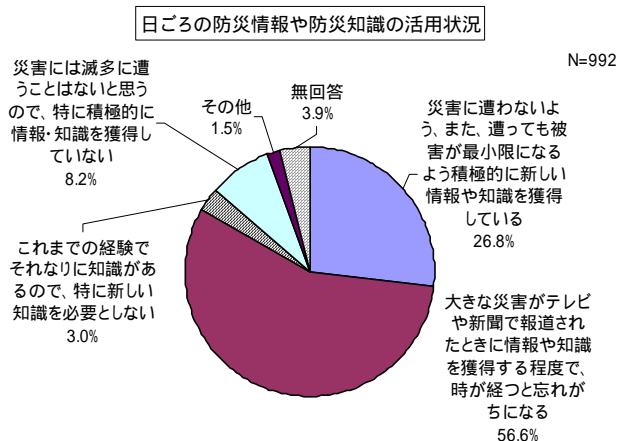
災害時に頼る情報源を性別で見ると、差は見られません。また、年代別で見ると、「ラジオ」が年代が高くなるに連れ多くなる傾向を示し、「新聞」もほぼ同様の傾向が見られます。一方、「携帯電話」、「インターネット」は年齢が低くなるに連れ多くなる傾向を示しています。



5. 防災情報や防災知識についての活用の仕方

防災情報や防災知識についての活用の仕方は、「大きな災害の報道時に情報や知識を獲得する程度で、時間が経つと忘れがちになる」が56.6%と5割を超えて多くなっています。

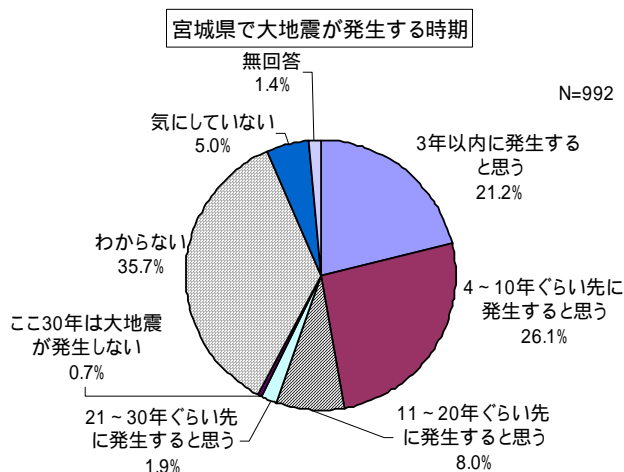
防災情報や防災知識についての活用の仕方を性別で見ると、「大きな災害の報道時に情報や知識を獲得する程度で、時間が経つと忘れがちになる」は女性(61.5%)が男性(51.6%)を9.9ポイント上回っています。また、年代別で見ると、「災害に遭うことは滅多にないと思うので、特に積極的に情報・知識を獲得していない」が20代で14.2%と他の年代に比べ多くなっています。



(単数回答)

6. 宮城県で大地震が発生すると思われる時期

宮城県で大地震が発生すると思われる時期については、「3年以内」が21.2%、「4～10年後」が26.1%となっており、これらを合わせた『10年以内』が47.3%と5割近くを占めています。



(単数回答)

「お問合せ先」

仙台市青葉区本町2丁目16-3 TEL 022(217)3021 FAX 022(217)3022

E-mail:erc@os.rim.or.jp http://www.os.rim.or.jp/~erc/

株式会社 東日本リサーチセンター 企画調査部 (担当:新妻、佐藤)

禁無断転載